

## 宮崎層群高鍋層の冷湧水性化石群集

池田和寛\*・間嶋隆一\*\*・和田秀樹\*\*\*・加藤和浩\*\*\*\*

\*横浜国立大学大学院環境情報学府・\*\*横浜国立大学教育人間科学部・\*\*\*静岡大学理学部・\*\*\*\*静岡大学大学院理工学研究科

## A cold-seep assemblage from the Takanabe Formation, Miyazaki Group, Kyushu, Japan

Kazuhiro Ikeda\*, Ryuichi Majima\*, Hideki Wada\*\* and Kazuhiro Kato\*\*

\* Geological Institute, Yokohama National University, Yokohama 240-8501, Japan. \*\* Institute of Geosciences, Shizuoka University, Shizuoka 422-8529, Japan.

**Key words:** cold-seep assemblage, Takanabe Formation, Miyazaki Group, Pliocene, *Lucinoma*, carbonate concretion

宮崎県児湯郡新富町の久家神社（図1, 2, 3, 4）およびその周辺に露出する上部鮮新統高鍋層（鳥井ほか, 2000）から、主にツキガイモドキガイ類化石（図5）の密集する化石群集が産出した。群集は著しく<sup>13</sup>Cに枯渇した ( $\delta^{13}\text{C} = -30.69\text{‰} \sim -53.21\text{‰}$  vs. PDB) 炭酸塩コンクリーションと共に産し、貝化石が自生的な産状を示すことから現地性の冷湧水性化石群集と判断される。冷湧水性化石群集は、南北方向に100 m、東西方向に60 mの範囲に露出し（図3）、少なくとも12 mの厚さを有する。この群集と同じ層準から同相

的に産出した貝化石は、50～150 mの古水深を示したことから、この群集は陸棚に生息していたと判断される。

有馬義人氏、松永幸寿氏、瀧口則雄氏には、現地でご支援頂いた。文部省科学研究費（課題番号08640588, 10440146）を調査費の一部として使用させて頂いた。

### 文献

鳥井真之・尾田太良・板谷徹丸, 2000. 宮崎層群に挟在する凝灰岩層とそのK-Ar年代. 火山, 45 (3), 131–148.  
 (2002年10月23日受付, 2002年12月2日受理)

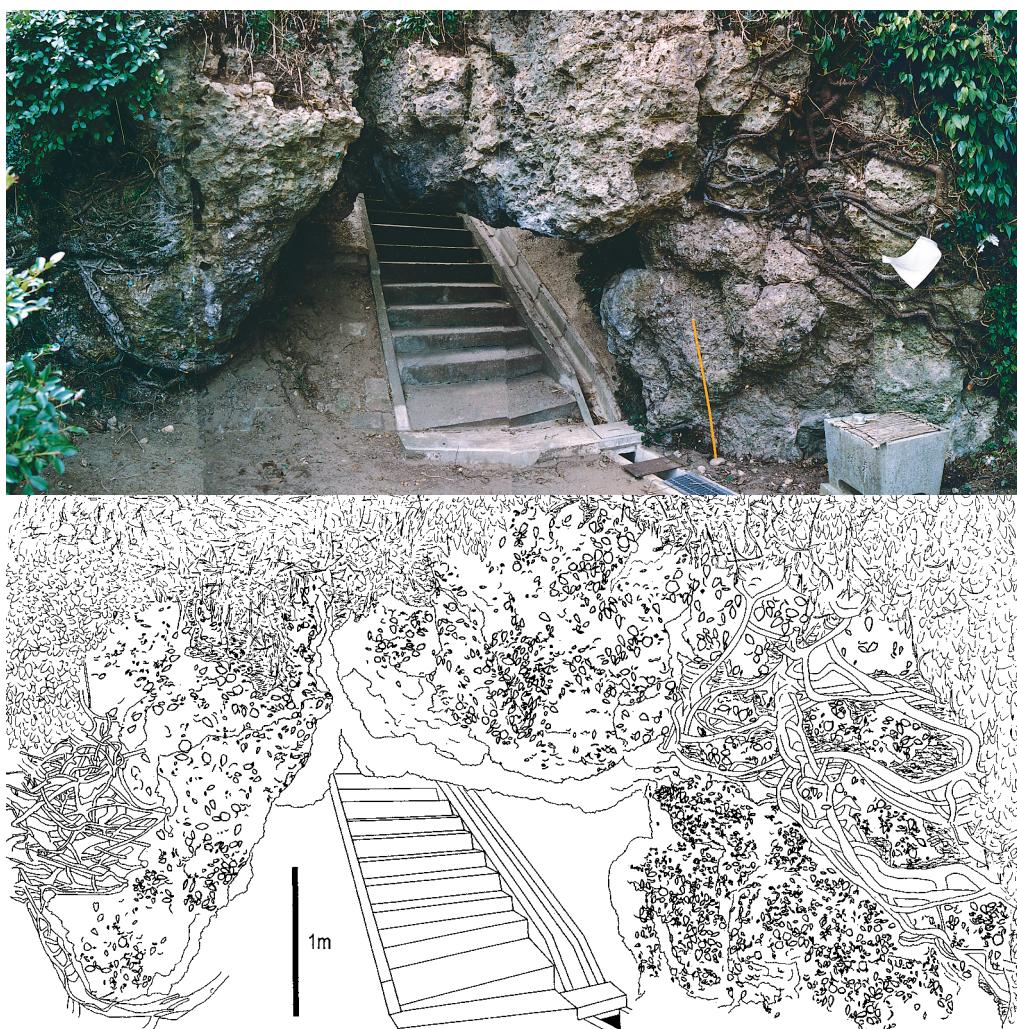


図1. 久家神社に露出する冷湧水性化石群集の露頭写真（上図）とそのスケッチ（下図）。炭酸塩コンクリーション中にツキガイモドキガイ類が密集して産出し、これらの岩体は神社の御神体となっている。写真的撮影位置を図3に示す。

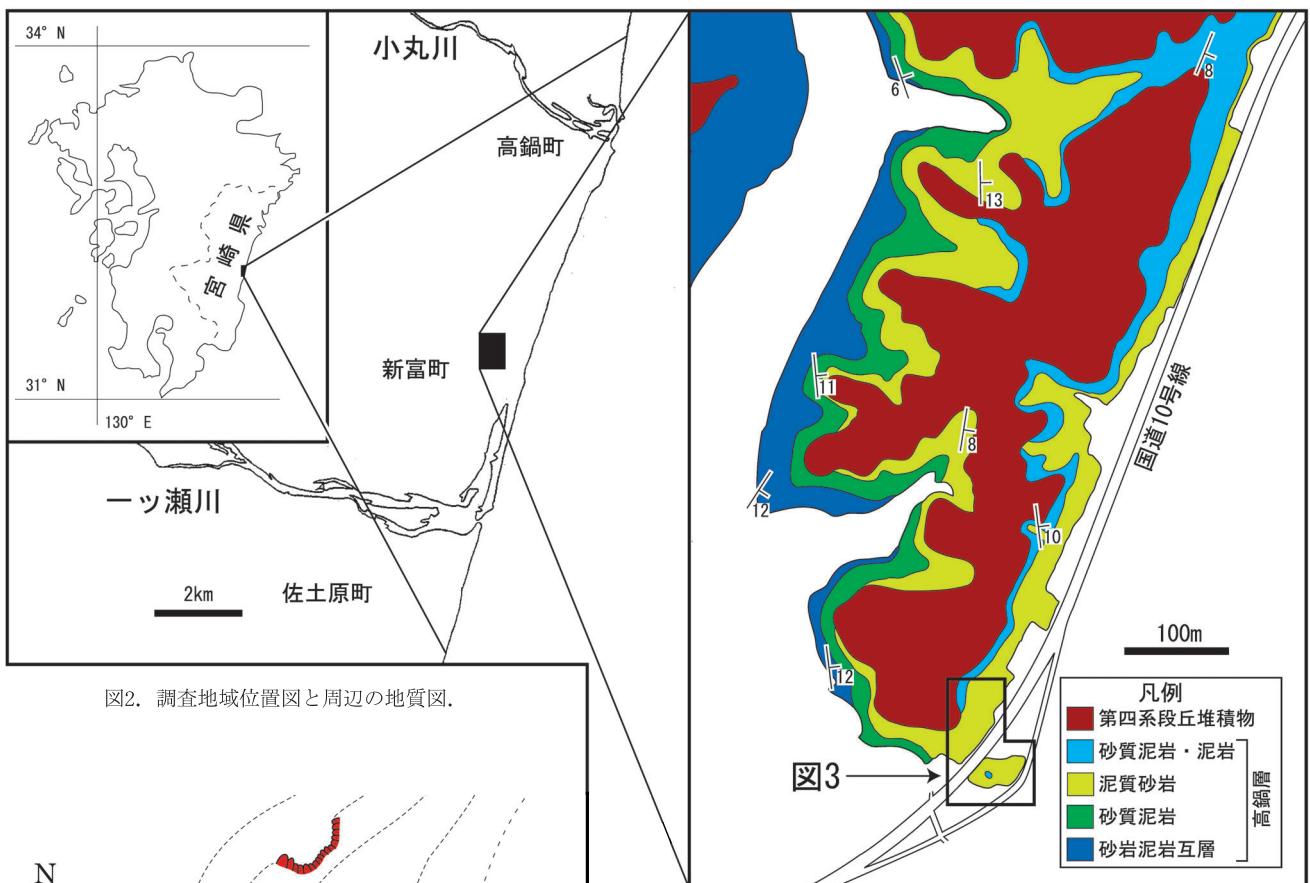


図2. 調査地域位置図と周辺の地質図。

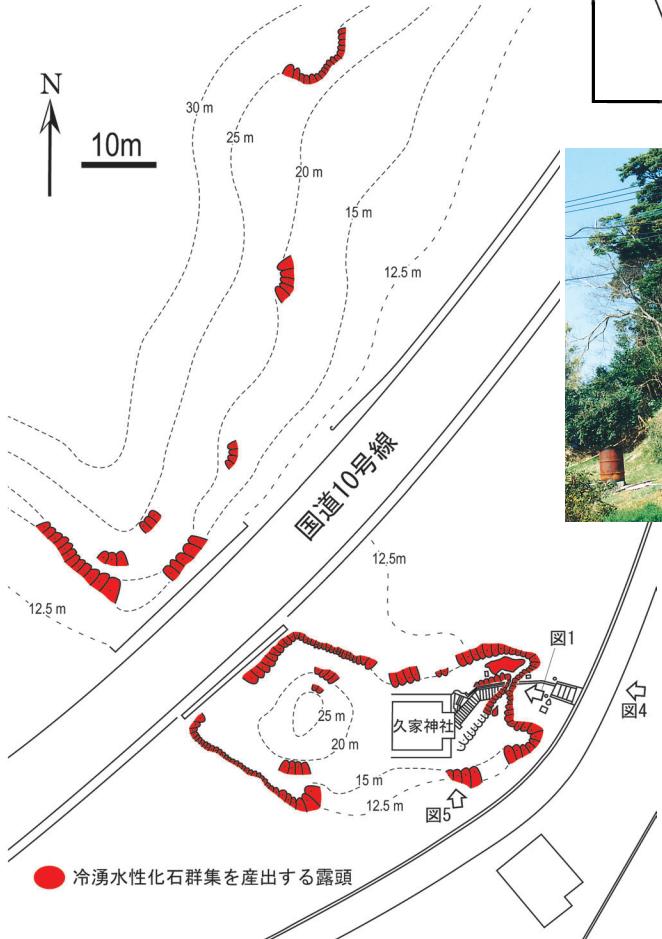


図3. 久家神社およびその周辺の冷湧水性化石群集の産出露頭。久家神社は神社の丘全体が炭酸塩コンクリーションからなっている。

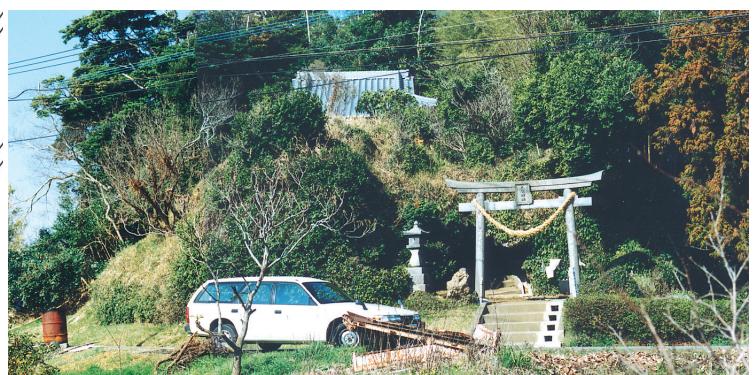


図4. 久家神社全景。写真的撮影位置を図3に示す。

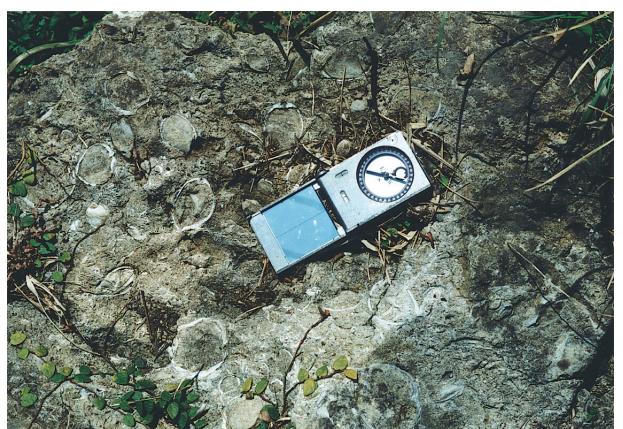


図5. 久家神社におけるツキガイモドキガイ類化石の産状。